小牧山　11月号　電子版

県営名古屋空港「空の日」フェスタ２０２４

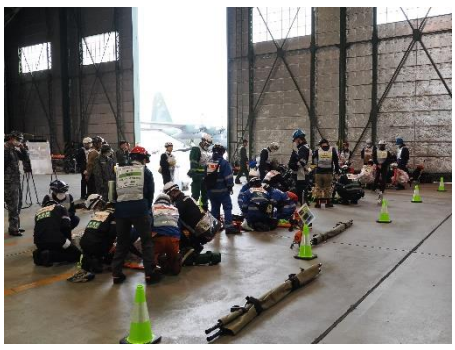
小牧基地は１１月２３日（土）に「空の日」・「空の旬間(じゅんかん）」記念事業として行われた「県営名古屋空港「空の日」フェスタ２０２４」を支援し広報活動を実施しました。

当日は、名古屋空港側からバスで移動してきた一般の方１２０名が、 基地駐機場に展示したKC－７６７、K／C－１３０H、U－１２５A、UH－６０Jの４機の航空機及び１００００立級救難消防車を見学しました。

参加者は普段は入ることのできない立ち入り禁止エリアをバスで通行し、滑走路等を横断して小牧基地に来場しました。展示機が近づいてくると、期待していた以上のわくわく感に高揚し、バスを降りる際は満面の笑みを浮かべて、各機の説明に熱心に耳を傾け、展示機等に見入っていました。

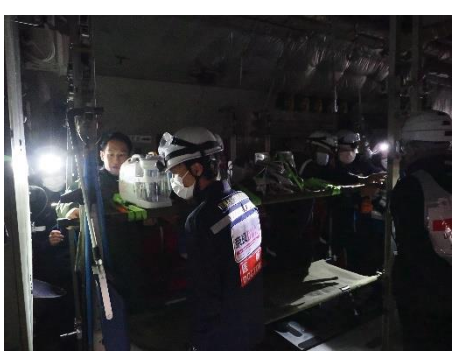
この日は名古屋空港側においても「県営名古屋空港」「あいち航空ミュージアム」「エアポートウォーク名古屋」等で、秋の青空の下、空と触れ合うイベントが催されてされていました。

DMAT 自衛隊航空機実機を使用した医療搬送実地訓練



１１月２６日（火）第１輸送航空隊は、厚生労働省からの依頼に基づきDMAT隊員が行う航空自衛隊機を使用した医療搬送実地の訓練を支援しました。

今回は近隣４県の医療施設から４チームのDMAT隊員が訓練を行いました。初めに担架に医療資器材を固定する訓練を指導員の指導を受けながら行い、固定が完了したのちは、実際に航空機（K／C－１３０H）の機内に担架を搬送し、担架の固定を実施しました。今回の訓練は機内が非常に暗く、担架を機内に固定するための担架ストラップや支柱が入り組んでる中、空中輸送員の指示の下ヘッドランプで手元を照らしながらの作業となり、非常に動きづらい環境下での作業に悪戦苦闘しておりました。

訓練の最後は、医師、看護師及び調整員が機内に乗り込み、実際に航空機のエンジンを始動させて、騒音下でコミュニケーションを取るための手信号等による意思疎通訓練を実施して終了しました。

DMAT：災害医療派遣チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって略して呼ばれています。医師、看護師、業務調整員で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね４８時間以内）から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのことを言います。